工学研究科　学位論文に係る評価にあたっての基準

		修士論文の評価基準（満たすべき水準・審査体制・審査方法・項目等）	
工学研究科	全専攻	＜学位論文として満たすべき基準＞ 修士課程の学位論文審査は、公開発表会での発表ならびに提出された論文について、主査1 名および副査2名が以下の基準について評価する。 1 専攻する研究分野において、要求される知識や能力を修得していること 2 問題意識が明確で、課題設定が適切に表現されていること 3 事実調査や先行研究の文献資料などの探索が十分に行われ、適切に検討・吟味されていること 4 研究結果についての整理と解析が十分に行われていること 5 結果に基づく仮説や結論の展開が明確で、論理的であること 6 研究の実施において、安全への適切な配慮がなされていること 7 研究の公正性が保たれていること	
	機械工学	修士（工学）	修士論文の審査では、機械工学の専門分野の内、エネルギー工学、材料・加工工学、設計工学、計測制御・ロボティクス、システム工学、または他分野を含む複合領域の知識を習得した上で、関連課題の価値や重要性を見極め、その解決策を評価できる力を有するかどうかを基に審査する。
	化学応用学	修士（工学）	修士論文の審査では、生命分野、有機分野、無機・金属分野、環境・システム分野のうち関連する専門領域について最新の知識および、関連する学会や産業界の最新の研究・技術についての知識を有しているかどうかを基に審査する。
	電気・電子工学	修士（工学）	修士論文の審査では、エネルギー変換分野、計測・制御分野、情報・通信分野、電子デバイス分野のうち１つにおいて専門知識を有し、課題解決、研究推進の手段として自ら活用できる力を有しているかどうかを審査する。
	情報学	修士（工学）	修士論文の審査では、社会システム工学、電気電子工学、人間工学、言語学、教育学、心理学およびその関連分野における専門技術を身につけ、課題解決、研究推進の手段の１つとして自ら活用できる力を有しているかどうかを審査する。
		修士（情報学）	修士論文の審査では、情報科学、人間情報学、応用情報学およびその関連分野における専門技術を身につけ、課題解決、研究推進の手段の１つとして自ら活用できる力を有しているかどうかを審査する。
	建築学	修士（工学）	修士論文の審査では、まちづくり・建築・建築デザインの学士力を基礎とした「技術系」の専門分野における高度な知識や、建築または都市空間に関わる諸要素を整理・分析する技術及び研究力を有しているかどうかを基に審査する。
		修士（建築学）	修士論文の審査では、まちづくり・建築・建築デザインの学士力を基礎とした「意匠計画系」の専門分野における高度な知識や、建築または都市空間を計画・デザインする技術及び研究力を有しているかどうかを基に審査する。
	システムデザイン	修士（工学）	修士論文の審査では、各自の研究に関連した工学専門分野に関する文献・実地調査、仮説の設定と検証などを行うことができるか、また、技術的問題を分析し、経営的視点を踏まえた上で課題を設定・解決できる力を有しているかどうかを基に審査する。
		修士（システムデザイン）	修士論文の審査では、幅広い視野を身につけるための関連領域（技術経営、知財、マネジメント等）に関する知識と認識をもち、高度なオペレーション能力を身につけているか、また、経営的視点を踏まえて技術的課題を明らかにできる力を有しているかどうかを基に審査する。